

房総の 文化財

VOL.61



土偶(山武姥山貝塚)

【遺跡紹介】

- ◆ 山武郡横芝光町 木戸台遺跡
- ◆ 山武郡横芝光町 山武姥山貝塚
- ◆ 山武郡芝山町 境砦跡

【出土遺物公開事業】

- ◆ 令和3年度の報告「らくがく縄文館—縄文土器のマナビを楽しむ—」
- ◆ 令和4年度の予告「柏北部東地区の遺跡展」



遺跡紹介

圏央道の遺跡 (横芝光町・芝山町)

首都圏中央連絡自動車道(略称:圏央道・大栄～横芝)建設に伴って調査が行われている遺跡は35遺跡に及び、成田市、多古町、横芝光町、芝山町の1市3町に所在しています。現在まで33遺跡の調査が行われ、多くの成果が得られています。木戸台遺跡、山武姥山貝塚、境峯跡の3遺跡を紹介します。

縄文時代の貯蔵穴 -木戸台遺跡-



SK256 遺物出土状況



袋状土坑想像図



SK25 貝層

木戸台遺跡は、太平洋に注ぐ栗山川の支流である高谷川から南西にのびた、小さな谷に面した台地上にある遺跡で、平成29年度から圏央道建設に先行して発掘調査が進められ、縄文時代中期中頃と古墳時代後期のムラの跡が見つかっています。縄文時代のムラは台地上だけではなく、谷を埋めた土の中まで広がっています。

縄文時代中期中頃のムラからは住まいである竪穴住居と、クリなどの堅果類やヤマイモなどの植物性食料を貯蔵したと考えられる穴が見つかっています。当財団が発掘調査を行った千葉市有吉北貝塚、市原市草刈貝塚、柏市小山台遺跡など千葉県を代表する中期中頃の下総台地のムラは、中央広場を囲むように外帯には竪穴住居跡が、内帯には貯蔵穴が群集して環状に配置されています。一方、木戸台遺跡は台地がそれほど広くないためか、ムラは環状とならず、同じ時期の竪穴住居跡と貯蔵穴が近接した位置に作られ、全体に広がっているようです。

SK256は他の遺構と切り合っていて全容がわかりませんが、イラストのように開口部が小さく、底部に向かって袋状となる貯蔵穴と思われます。このような形状の貯蔵穴は、開口部に蓋をしておけば温湿度が一定に保たれ、堅果類やヤマイモなどの貯蔵に適していたと考えられています。袋状の貯蔵穴は縄文時代早期に北海道道南から北東北に出現して次第に南下し、中期になって北関東を経由して東関東でも作られるようになります。木戸台遺跡の袋状の貯蔵穴は、千葉県では最も古いものの一つに数えられます。また、貯蔵穴からは土器がまとまって出土したり、貝殻がまとまって捨てられていたりします。これらは使わなくなった貯蔵穴に不要になったものを捨ててムラの環境を整えようとした、縄文人の意識が表れているのかもしれません。



縄文時代の祈りの道具 -山武姥山貝塚-

山武姥山貝塚は、太平洋に面した九十九里平野へ入る谷によって、複雑に周囲を刻まれた台地上にある遺跡です。圏央道建設に先行した発掘調査は、貝塚部分を除いた遺跡西側を対象に、令和2年度から開始されました。山武姥山貝塚は過去の調査成果から、千葉県を代表する縄文時代後期から晩期を主体とした大きな遺跡になると考えられます。

縄文時代後期中頃以降になると、土偶や石製品など縄文人の精神世界に関わるいろいろな道具が増えるようになります。写真の土偶は後期中葉加曾利B式の山形土偶と、後葉の安行式のミミズク土偶の両方の特徴を併せ持っています。具体的にお話すれば、粘土粒に線を入れたつり目、環状の耳、外に反った手先、腹部の膨らみなどの表現や、後頭部のこぶ状の突起などは山形土偶の特徴で、顔の輪郭や体躯の隆起線、乳房の微妙な表現、多用される連続刺突文はミミズク土偶の特徴と言えます。

石製品では彫刻を施した石剣が目立ちます。写真左は頭部にI字文を連続的に彫り込んでいる緑泥片岩製の石剣です。写真右は頭部の横に引いた沈線の中に、斜めの沈線を充填した粘板岩製の石剣です。火を受けており、火を伴った祈りに使用された可能性があります。



土偶表面・裏面



石剣

木戸台遺跡

山武姥山貝塚

BC(紀元前)

旧石器時代

縄文時代

弥生

約30,000年前

約12,000年前

約2,300年前



尾根上の古代集落 -境砦跡-

芝山町境砦跡は、太平洋に注ぐ栗山川の支流である高谷川へ延びる支谷の谷頭を間近に臨む狭長な尾根上に位置しています。発掘調査は、斜面部を含む9,546㎡を対象に令和3年5月1日から行われ、古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡22軒と土坑などの他、区画溝などの中世城郭の一部が検出されました。

本遺跡の主体となる奈良・平安時代の集落は、谷を挟んで対峙する多古町千田の台遺跡と芝山町山の台遺跡でも調査されており、谷頭を囲むように同時期の集落が展開するような景観を示しています。この中で注目されるのが、竪穴住居跡のカマド内の遺物出土状況です。8世紀後半のSI015の煙道部からは、3個体の甕が意図的にまとめて置かれた状態で出土しています。また9世紀中頃のSI012では、支脚が立ったままの状態で見つかっています。

出典：国土地理院GIS地図に加筆



SI015 煙道部内遺物出土状況



SI012 カマド内遺物出土状況

航空写真（北から）

令和3年度出土遺物公開事業 **らくがく縄文館** —縄文土器の**マナビ**を楽しむ—

令和3年度出土遺物公開事業では、「縄文土器を楽しく学ぶ(=らく・がく)」をテーマに展示を行いました。展示の構成は、「第1章 縄文土器の美妙」、「第2章 縄文土器のライフサイクル」、「第3章 土器型式と標式遺跡」、「第4章 土器型式の移り変わり」、「第5章 土器型式から見る地域性と文化の広がり」という五つの章からなり、「縄文土器のマナビ」の一端をご紹介します。巡回した県内3館の博物館では、様々に造形美を追求した縄文土器が勢ぞろい。展示にあわせて実施した展示解説会や講座、講演会、ワークショップ「土器のペーパークラフトをつくろう」などもご好評いただき、たくさんの方々に千葉の縄文土器の魅力をぞんぶんに感じていただきました。



展示図録



展示ミニ図録



講演会

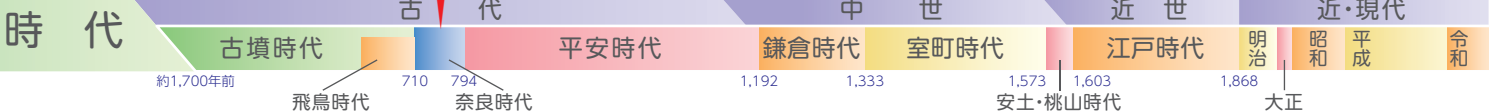
【展示開催館と期間】

- 市市川歴史博物館
令和3年7月24日(土)～9月12日(日)
- 八千代市立郷土博物館
令和3年10月16日(土)～12月5日(日)
- 袖ヶ浦市郷土博物館
令和4年1月15日(土)～2月27日(日)

【講演会】

- 千葉県立中央博物館講堂
令和4年1月22日(土)

AD(紀元後)



らくがく縄文館

みんなのランキング

結果発表

らくがく縄文館では、展示をご覧いただいた皆様にお気に入りの縄文土器を選んでいただきました。投票の結果、なんと6点もの縄文土器が同着1位に！たくさんご応募いただきありがとうございました。

開催館の所蔵資料が堂々のランクイン！！
全国的にみても希少な**舟形**をした片口注口土器。
※普段は八千代市立郷土博物館で展示しています。



八千代市
ヲサル山遺跡
(八千代市教育委員会)



柏市
大松遺跡
(千葉県教育委員会)

注目度 **No. 1**！！
度肝を抜く**大きさ**と、
隆帯文と**沈線文**の
織り成す**文様美**に
注目が集まりました。



船橋市
ユルギ松遺跡
(船橋市教育委員会)

動物意匠部門 **No. 1**！！
県内では珍しい**動物意匠文**。
サンショウウオと**カエル**
は幅広い世代に人気あり。



佐倉市
井野長割遺跡
(佐倉市教育委員会)

異形土器部門 **No. 1**はこの3点。
香炉形土器と**異形台付土器**。
用途がわからないぶん、見る人の**想像力**をかきたてたのかも。



鎌ヶ谷市
中沢貝塚
(鎌ヶ谷市教育委員会)

令和4年度出土遺物公開事業の予告

テーマ 柏北部東地区の遺跡展

平成10年から約20年にわたって発掘調査を行った、柏北部東地区の調査成果を、旧石器時代・縄文時代・古墳時代を中心に展示します。各時代の特徴について例を挙げると、縄文時代は「貝塚のあるムラ・ないムラ」古墳時代は「玉つくりのムラ」となります。期間中に展示解説会・ワークショップ・講演会等を予定しています。ご期待ください！

【展示開催館と期間】

- 柏市郷土資料展示室
令和4年7月23日(土)～令和4年9月18日(日)
- 船橋市立飛ノ台史跡公園博物館
令和4年10月15日(土)～令和4年11月27日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和5年1月21日(土)～令和5年2月26日(日)

【講演会】(予定)

- 千葉県立中央博物館講堂
令和5年2月ころ予定

縄文土器×3D

千葉県教育振興財団では、普及活動の新しい試みとして、「らくがく縄文館」に出展した資料の一部を3Dで公開しました。下の写真はそのうちの1つです。ただの写真のようですが、実際には数十枚、数百枚の写真画像から作成された3次元画像です。普段は観察することができない土器の裏側や底面等も、3Dであれば360度の全方向から鑑賞することができます。この機会に是非ご覧ください。

スマホやPCで操作するとくるくる回転するよ



佐倉市吉見台遺跡
(佐倉市教育委員会)



※展示図録・ミニ図録・講演会要旨とともに、縄文土器の3D画像を当財団ホームページでご覧いただくことができます。
※掲載画像は予告なく更新・削除することがあります。

房総の文化財

VOL.62



[遺跡紹介]

- ◆ 芝山町 殿部田古墳群15・19号墳
- ◆ 横芝光町 木戸台遺跡(6)・(7)地点
- ◆ 木戸台遺跡(6)地点の遺跡見学会について

[出土遺物公開事業]

- ◆ 令和4年度の報告「柏北部東地区の遺跡展―地中からの目覚め―」
- ◆ 令和5年度の予告「流山新市街地地区の遺跡展」

横芝光町木戸台遺跡出土土器

発行 | 公益財団法人 千葉県教育振興財団

発行日 | 令和5年3月13日

編集 | 〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL. 043-422-8811(代) FAX. 043-424-8850
URL http://www.echiba.org/bunkazai_top.html



ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai

遺跡紹介

栗山川を望む古墳群 -芝山町殿部田古墳群15・19号墳-

殿部田古墳群は、栗山川を東に望む台地上に位置しており、現在のところ前方後円墳5基、円墳21基、方墳1基の総数27基が確認されています。圏央道建設に伴って3基の古墳が調査されていますが、ここでは古墳群東側に所在する15号墳と19号墳を紹介します。

15号墳は、墳丘長35mほどの前方後円墳で、後円部に比して前方部が小さい形をしています。前方後円墳の形に地山を整形し、その上に盛土をして墳丘を築造しています。後円部墳頂部は江戸時代に大きく削平され、埋葬施設は確認されませんでした。刀子片や玉類がわずかに出土しました。周溝はほとんどなく、北側の墳丘外側に3基の土坑が設けられていました。

19号墳は直径約14mの小さな円墳で、周溝は尾根状の台地を切断するように南東側と北西側で確認されています。15号墳同様、埋葬施設は確認できませんでしたが、墳頂部表土直下から、直刀・刀子・碧玉製管玉・ガラス玉がまとめて出土しており、墳頂部に木棺直葬と呼ばれる埋葬施設があったと考えられます。



出典：国土地理院GIS地図に加筆

高谷川を見下ろす集落 -横芝光町木戸台遺跡(6)・(7)地点-

木戸台遺跡は、高谷川を望む標高40mほどの台地上に所在し、圏央道建設に伴い調査しました。昨年度までの5地点の調査では、縄文時代の竪穴住居跡約50軒、貯蔵などに使われた土坑1,000基以上、古墳時代後期の竪穴住居跡約50軒などが見つかり、縄文時代中期(約4,500年前)と古墳時代後期(約1,400年前)に大きなムラが営まれていたことが明らかとなりました。

今年度の(6)地点では、縄文時代中期の竪穴住居跡5軒、古墳時代後期の竪穴住居跡16軒と奈良時代と思われる掘立柱建物跡2棟などが調査されました。また、(7)地点では古墳時代後期の竪穴住居跡1軒のみが営まれており、何らかの特別な建物であった可能性があります。



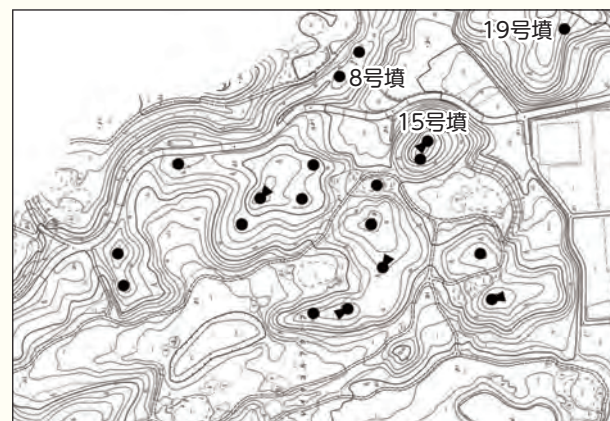
遺構全景写真(手前が(6)地点、奥が(7)地点)



(7)地点竪穴住居跡全景



(7)地点竪穴住居跡内遺物出土状況



殿部田古墳群分布図



15号墳航空写真



木戸台遺跡(7)地点出土土器



木戸台遺跡(6)地点の竪穴住居跡と掘立柱建物跡



19号墳全景(南東から、奥に見えるのが15号墳)



19号墳墳頂部遺物出土状況(直刀と管玉)

木戸台遺跡(6)地点の遺跡見学会

令和4年10月29日(土)実施

見学会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、事前予約制(全3回)とし、横芝駅及び横芝B&G海洋センターと会場を結ぶ送迎バスを手配して実施しました。3回とも定員に近い予約があり、好天にも恵まれ、合計87名の参加者となりました。

発掘調査現場では、縄文時代中期の貝層を含む土坑、古墳時代後期の竪穴住居跡、そして奈良時代の掘立柱建物跡について、遺物展示会場では、(6)地点に加え、これまでの地点の主な調査成果について遺物とパネルで紹介し、それぞれ担当職員が解説を行いました。



旧石器時代

約30,000年前

縄文時代

約12,000年前

弥生時代

約2,300年前

BC(紀元前) | AD(紀元後)

木戸台遺跡 殿部田古墳群15・19号墳

古墳時代

約1,700年前

飛鳥時代 710 794 奈良時代

平安時代

中世

1,192 1,333

鎌倉時代

室町時代

近世

1,573 1,603 安土・桃山時代

江戸時代

近・現代

1,868 大正

明治

昭和

平成

令和

【柏北部東地区の遺跡展～地中からの目覚め～】

今回の展示では、平成10年度から平成28年度にかけて調査された柏北部東地区の出土品などから、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、中世・近世の4つの時代を通した調査成果を紹介しました。

旧石器時代は、立川ローム層IV下・V層に遺跡数がピークであり、主に北関東から石器・石材が搬入されていたことを遺物及びパネルで紹介しました。縄文時代は、特に前期と中期のムラに着目し、装身具、石器組成から見た森林資源の利用、貝塚の有無による海産資源の利用を対比して示しました。またトピックスとしてアナグマ猟に伴う「トンネル状遺構」も展示しました。古墳時代は、カマドの出現に関連する烏帽子形土製品や炉・カマドに関連する土玉祭祀と石製模造品について紹介しました。中世・近世では、中世の開発領主の墓と隣接する江戸時代のお堂との関連を明らかにするとともに、近世農村集落の遺物を展示しました。各展示施設にてワークショップなどの関連行事を実施し、2月19日(日)には、千葉県立中央博物館にて講演会を行いました。

【会期】

- 柏市郷土資料展示室
令和4年 7月23日(土)～ 9月18日(日)
- 船橋市飛ノ台史跡公園博物館
令和4年10月15日(土)～11月27日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和5年 1月21日(土)～ 2月26日(日)



展示風景



ワークショップ風景



講演会

令和5年度出土遺物公開事業の予告

テーマ 流山新市街地区の遺跡展

当財団では平成9年から流山新市街地区で発掘調査を開始し、平成30年度に調査を終了しました。17か所の遺跡を発掘調査して、今から約28,000年前の旧石器時代後半期を中心とする石器群(ブロック)や古墳時代前期から中期にかけての竪穴住居跡からは土器とともに鏡や石製模造品などが見つかっています。そこで、これまでの調査成果をより多くの方にご覧いただくため、県内の各博物館を巡回し、出土した資料及び解説パネル等で紹介します。

【開催館と会期】

- 流山市立博物館
令和5年 7月15日(土)～ 9月 3日(日)
- 八千代市立郷土博物館
令和5年10月14日(土)～12月 3日(日)
- 木更津市郷土博物館金のすず
令和6年 1月20日(土)～ 2月25日(日)

【展示解説会】

- 流山市立博物館
令和5年 7月29日(土)／ 8月 6日(日)
- 八千代市立郷土博物館
令和5年10月21日(土)／11月19日(日)
- 木更津市郷土博物館金のすず
令和6年 2月10日(土)／ 2月24日(土)

【講演会】

- 会場 流山市初石公民館
- 期日 令和5年9月2日(土)

【講座】

- 流山市立博物館
 - 木更津市郷土博物館金のすず
- 上記の2館で会期中、展示内容をより深く学ぶための解説を行います。時間は45分程度を予定しています。



竪穴住居跡出土重圏文鏡



古墳時代竪穴住居跡出土土器

【ワークショップ】古墳時代の造形を学ぼう

- ① 石製模造品をオープン粘土で作ろう！
 - ② 指編みで組紐を作ろう！
- 流山市立博物館 …………… 令和5年 8月19日(土)
 - 八千代市立郷土博物館 …………… 令和5年11月11日(土)
 - 木更津市郷土博物館金のすず …… 令和6年 1月27日(土)

※この展示に関わる予約方法や受付人数など詳細は財団ホームページで5月以降お知らせします

令和5年度出土遺物公開事業の成果報告

【流山新市街地地区の遺跡展～大地より出でし先人の足跡～】

今回の展示では、平成9年度から平成30年度にかけて調査された流山新市街地地区から、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の5つの時代について調査成果を紹介しました。

旧石器時代は、最終氷期最寒冷期の遺跡に焦点をあて、前後の時期に比べ石器石材の変化する様子を紹介しました。縄文時代では、前期中頃と中期後半のムラを中心に紹介し、トピックスとして東北南部からもたらされたとされる「有撮石器」^{ゆうさつ}を展示しました。古墳時代は、前期は遠隔地を含めて多様な出自を示す土器と火処や、祭祀跡とみられるミニチュア土器のセット、中期は石製模造品工房跡について製作工程の復元を中心に展示を行いました。奈良・平安時代は、仏教の広まりを出土骨蔵器とパネルで解説しました。近世では、江戸幕府によって営まれた牧につくられた野馬土手・野馬堀について、出土遺物とともに紹介しました。

各会場では展示解説会、ワークショップを実施し、9月2日(土)には流山市初石公民館にて講演会を行いました。

【会期】

- 流山市立博物館
令和5年 7月15日(土)～ 9月 3日(日)
- 八千代市立郷土博物館
令和5年10月14日(土)～12月 3日(日)
- 木更津市郷土博物館金のすず
令和6年 1月20日(土)～ 2月25日(日)



展示解説会



ワークショップ風景



講演会風景

令和6年度出土遺物公開事業の予告

テーマ 地中からのメッセージ～旧石器・縄文・弥生～ —千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part1—

当財団は、昭和49年財団法人千葉県文化財センターとして発足して以来、令和6年に50周年を迎えます。50年間にわたり当財団が実施した埋蔵文化財発掘調査で出土した遺物の中から選りすぐりの考古資料を展示し、千葉県の原始から中・近世までを振り返ります。

令和6年度はpart1として、旧石器・縄文・弥生時代の展示を行います。期間中には、展示解説会・ワークショップ・講演会・トークイベントなどを予定しています。ご期待ください！



槍先形尖頭器



鹿角製腰飾り



小銅鐸

【開催館と会期】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和6年 9月21日(土)～11月17日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和6年12月21日(土)
～令和7年 2月 9日(日)

【講座】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和6年10月27日(日)

【展示解説会】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和6年 9月29日(日)、11月 9日(土)
- 千葉県立中央博物館
令和7年 1月12日(日)、2月 2日(日)

【講演会】

- 千葉県立中央博物館
令和7年1月26日(日)

【ワークショップ】貝輪づくり

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和6年10月14日(月・祝)
- 千葉県立中央博物館
令和7年 1月11日(土)

【トークイベント】

- 千葉市生涯学習センター大ホール
令和7年1月19日(日)

※この展示に関わる予約方法や受付人数など詳細は財団ホームページほかで5月以降にお知らせします



房総の文化財 VOL.63

【遺跡紹介】

- ◆横芝光町 高谷川低地遺跡 (10) 縄文時代の丸木舟
- ◆高谷川低地遺跡の出土遺物見学会

【出土遺物公開事業】

- ◆令和5年度の報告「流山新市街地地区の遺跡展～大地より出でし先人の足跡～」
- ◆令和6年度の予告「地中からのメッセージ～旧石器・縄文・弥生～—千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part1—」

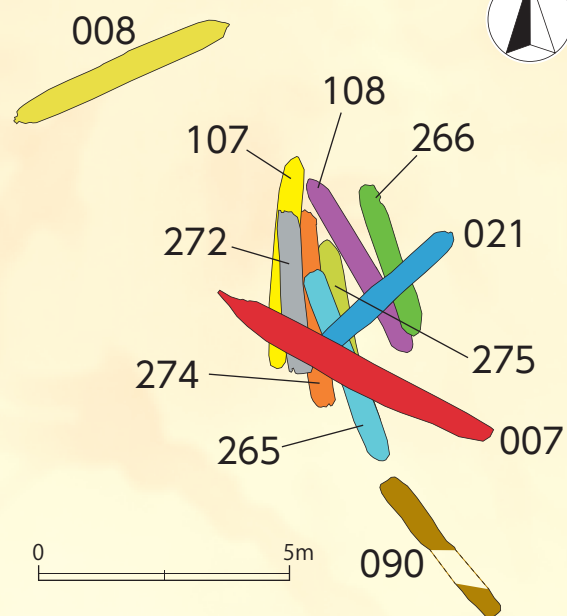
遺跡紹介

横芝光町高谷川低地遺跡 (10)

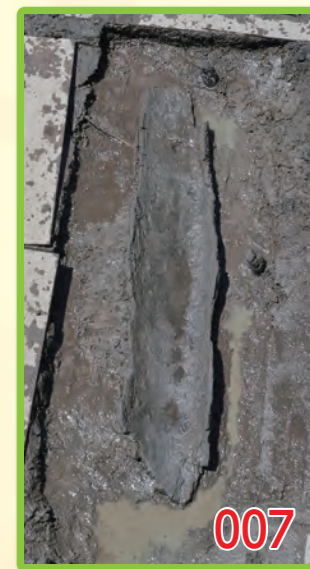
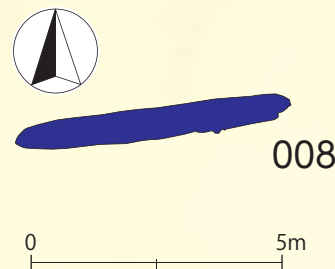
縄文時代の丸木舟15艘



SX001 (北部集中地点)



SX002 (南部集中地点)



高谷川低地遺跡



丸木舟出土地点

縄文時代の丸木舟は、これまで全国で約160艘が発見されていますが、そのうち千葉県出土のものは約80艘と国内最多です。とりわけ、東総地域の栗山川流域や九十九里浜沿岸中央部に集中しています。高谷川は栗山川の支流のひとつで、高谷川が栗山川に合流する付近の低地部では、古くから縄文時代の丸木舟や木製の櫂などが見つかっています。

今回、首都圏中央連絡道建設に伴い、この付近を令和4年と令和5年に発掘調査した結果、縄文時代後期(約3,500年前)の丸木舟15艘や漆塗りの櫂などが出土しました。丸木舟は、北部では11艘が密集した状態で、南部では4艘が並んだ状態で発見されました。

高谷川低地遺跡出土遺物見学会

見学会は、令和6年2月17日(土)に千葉県教育振興財団横芝作業所で開催しました。当日は、丸木舟、櫂、漆塗りの櫂などの木製品や、土器の展示と解説を行いました。

全6回、合計131名の方に御参加いただきました。見学した方からは、「貴重な丸木舟を実際に見れてよかった」、「漆塗りの櫂の鮮やかな色に感動した」、「縄文時代の木製品の加工技術に驚いた」などの感想をいただきました。



出土遺物 漆塗りの櫂

旧石器時代

約30,000年前

縄文時代

約12,000年前

高谷川低地遺跡

弥生時代

約2,300年前

BC(紀元前) | AD(紀元後)

古代

約1,700年前

古墳時代

飛鳥時代

710

794

奈良時代

平安時代

1,192

1,333

鎌倉時代

室町時代

1,573

1,603

安土・桃山時代

近世

江戸時代

1,868

明治

昭和

平成

令和

大正

房総の文化財

VOL.64



【設立50周年記念事業特集】

- ◆ 令和6年度「地中からのメッセージ ～旧石器・縄文・弥生～
(公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part1」
- ◇ (公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念トークイベント
「縄文愛を熱く語ろう ～縄文とつながる今とこれから～」
- ◆ 令和7年度「地中からのメッセージ ～古墳・古代・中近世～
(公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part2」

【遺跡紹介】

- ◆ 佐倉市神門道乗谷津遺跡(1)・(2) ～ 斜面に広がるムラの跡 ～
- ◆ 佐倉市神門道乗谷津遺跡(2) 遺跡見学会

令和6年度出土遺物公開事業の成果報告

【地中からのメッセージ ～旧石器・縄文・弥生～】

(公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part1

今回の展示は昭和49年に発足した当財団が50年にわたって行った発掘調査の成果のうち、旧石器・縄文・弥生の各時代を取り上げました。旧石器時代は千葉県から出土した石器群を古い方から順に1期から7期に分けて、石器群の変遷を示しました。縄文時代は「土器の移り変わり」・「縄文の技巧と道具」・「縄文人のムラづくり」・「水辺が語る縄文人の暮らし」という4つのテーマに沿って、主要な出土品を展示しました。弥生時代は「弥生再葬墓の時代」・「農具を作る工具類」・「水田のある風景」・「弥生中期の地域性」・「弥生後期の地域性」・「まつり・いのり・占い」・「房総の小銅鐸」という7つのテーマに沿って展示しました。皆さん、いかがでしたか？

会期中に展示解説会、展示内容に関連した講座と講演会を実施しました。講座は展示内容からテーマを選び、若手職員が担当しました。講演会では各時代の展示を担当したベテラン職員によって、テーマを深掘りした内容をお話しました。

今回のワークショップは、展示に関連して縄文時代の貝輪づくりにチャレンジしました。貝輪の素材となるベンケイガイや、加工のための道具である叩き石・砥石は縄文人と同じく海岸など現地で採集し、鹿の角は北海道に生息するエゾシカの角を入手しました。

それでは貝輪づくりにチャレンジです。まずはベンケイガイの頂部に最初の一撃、そこから鹿の角や叩石で穴を徐々に大きくしていきます。もうちょっと広げたいと思っていると柔な蝶番部が割れて再チャレンジして完成した人もいれば、最初の1個を大事に作り込んでいく人と様々でした。割れ口を砥石で磨いて完成。貝輪づくりを通して、縄文人に思いを馳せることができました。

会 期

- 千葉県立房総のむら
令和6年9月21日(土)
～11月17日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和6年12月21日(土)
～令和7年2月9日(日)



展示解説会



ワークショップ (貝輪づくり)

表紙のコラム

写真は、昭和61年に発掘調査を行った四街道市池花南遺跡で検出された、旧石器時代初期(今から35,000年ほど前)の環状ブロック群です。

県南産の石材を主体とする台形石器や石斧、剥片類など740点が、直径約30mの範囲に見られました。石器の分布状態や内容は、当時の集落を考える上で貴重な資料であり、石器は千葉県指定有形文化財(考古資料)になっています。今回はその一部を展示しました。

縄文愛を熱く語ろう —縄文とつながる今とこれから—

多くの人々を魅了してやまない縄文!!

令和7年1月19日(日)、千葉市生涯学習センターを会場として縄文愛をテーマとしたトークイベントを開催しました。登壇者に西野雅人さん(縄文人の生活・生業・食生活を研究)、戸村正己さん(縄文土器製作技術を研究)、望月昭秀さん(フリーマガジン縄文ZINEを編集・発行)をお招きして、それぞれの縄文愛とこれからの夢などを大いに語っていただきました。登壇者の^{ほとばし}進む熱気が会場内にも伝わり、とても時間内では収まり切れないくらいの盛り上がりを見せました。



また、会場で戸村さんが製作した土器・土偶を展示したところ、来場者からたいへん好評でした。

皆さん、ありがとうございました!!



令和7年度出土遺物公開事業の予告

テーマ 地中からのメッセージ～古墳・古代・中近世～ —千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part2—

令和6年に50周年を迎えた当財団では記念事業のひとつとして、50年間にわたり実施した埋蔵文化財発掘調査によって出土した遺物の中から選りすぐりの考古資料を展示し、千葉県の原始から中近世までを振り返ります。令和6年度の旧石器・縄文・弥生時代を対象としたpart1に引き続き、令和7年度はpart2として古墳時代・古代・中近世の展示を行います。期間中には、展示解説会・ワークショップ・講演会などを予定しています。

また、会期中に発掘調査で活躍する女性たちを描いた映画「掘る女」の上映会とトークショーを行います。ご期待ください。



【開催館と会期】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月6日(土)～10月26日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和8年1月17日(土)～2月23日(月祝)

【展示解説会】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月13日(土)、10月19日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和8年1月18日(日)、2月14日(土)

【ワークショップ】古代組紐づくり

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月20日(土)
- 千葉県立中央博物館
令和8年1月31日(土)

【講座】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月28日(日)

【講演会】

- 千葉県立中央博物館
令和8年2月15日(日)

映画「掘る女」上映会&トークショー

四街道市文化センター 令和8年1月18日(日)
主演の大竹幸恵さんをお招きします!!

房総の 文化財

VOL. 65

新シリーズ開始【遺跡メモリアルシリーズ】

- ◆ 1. 東北産頁岩を使った石刃石器群—印西市 荒野前遺跡（旧石器時代）—
- ◆ 2. 中期中葉～後期の貝塚を伴う環状のムラ—千葉市 有吉北貝塚・南貝塚（縄文時代）—
- ◆ 3. 弥生時代後期の水田のある風景—木更津市 芝野遺跡（弥生時代）—

【遺跡見学会開催】

- ◆ 佐倉市神門道乗谷津遺跡見学会

【出土遺物公開事業】

- ◆ 令和7年度「地中からのメッセージ～古墳・古代・中近世～」千葉県教育振興財団設立50周年記念展part2—

【財団設立50周年記念事業】

- ◆ 「掘る女」上映会&出演者トークショー

公益財団法人千葉県教育振興財団は、昨年度、設立50年を迎えました。展示会等で資料の紹介を行ってきましたが、この『房総の文化財』でも、財団の半世紀を振り返り調査成果を広く後世に伝えるため、「遺跡メモリアルシリーズ」として主な遺跡を順次とりあげてゆくことにいたしました。発掘調査当時にわからなくても、その後の研究の進展に伴って明らかとなったこともあります。

時代を、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の6区分に分け、それぞれの時代ごとに重要な遺跡をピックアップし、新しい知見なども踏まえて紹介していきたいと思えます。

今回は、旧石器時代・縄文時代・弥生時代から3つの遺跡を紹介します。

2 縄文時代 中期中葉～後葉の貝塚を伴う環状のムラ

—千葉市有吉北貝塚・有吉南貝塚—



有吉北貝塚・南貝塚 全体図

千葉市は大規模な貝塚が集中することで全国的に知られています。中でも有吉北貝塚と有吉南貝塚は、縄文時代中期の生活の様子を今に伝える貝塚・集落跡です。東京湾に注ぐ村田川右岸の台地に所在し、細尾根によって2つの遺跡が繋がっています。2遺跡とも、中央広場(中央の何も無い空間)を中心に内側から土坑、竪穴住居跡、斜面貝層が同心円状にめぐり、環状集落と呼ばれる、大規模な集落に特有の形がみられます。遺跡の形成は北貝塚の方が早く、北貝塚から南貝塚へと集落の中心が緩やかに移っていったことが分かりました。2遺跡の周辺には小規模な集落跡が確認されており、地域の拠点となる大規模集落とそれをとりまく小規模集落といった集落同士の関係が想定されています。権威を示す装飾品を身に付けて埋葬された人骨も出土しており、集落や、遺跡が所在した地域の重要人物だったと推測されます。このような地域の指導者層の存在からも、有吉北貝塚・有吉南貝塚が地域の中で中心的な役割を果たしていたのではないかと考えられています。

代表的な成果として、厚さ3m以上にもなる大規模な斜面貝層があげられるでしょう。貝層とは、貝殻によって形成される層です。ゴミ捨て場としての性格が強いことから、食料残滓(食べかす)として貝のほかに骨も含んでいます。貝層を詳しく調べることで、縄文時代の人々がどのような動物を食料としていたのかを知ることができ、有吉北貝塚では村田川河口の干潟で採取された貝(イボキサゴやハマグリ)を食べていたことが分かりました。また、ハマグリの変化から、乱獲とその後の資源保護の様相が確認されています。そのほかに魚類・哺乳類・鳥類といった貝以外の動物資源、ドングリやクルミといった植物など、海や山でとれる食料を多角的に利用していたことから、安定した生活を営むことができたと考えられています。

(小川 慶一郎)



有吉北貝塚 斜面貝層



有吉南貝塚 埋葬人骨

荒野前遺跡

有吉北貝塚・南貝塚

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

約30,000年前

約12,000年前

約2,300年前

BC(紀元前)

1 旧石器時代 東北産頁岩を使った石刃石器群—印西市荒野前遺跡—

北総線「印旛日本医大駅」の傍ら、線路をまたぐ県道65号線の陸橋下にかつてあった遺跡です。高台にある駅と住宅街は、谷津の斜面林に囲まれています。林を抜けると今も豊かな里山が残り、その奥には広大な印旛沼低地が広がっています。

水辺に動物が集まるこの地は、旧石器時代には絶好の狩場だったのでしょうか。駅工事に伴う調査では、約32,000～20,000年前の6時期の活動の痕跡が見つかりました。今回紹介するのは、約30,000年前の第3文化層の一群です。東北の頁岩や信州の黒曜石を使った100点以上の石刃とナイフ形石器に対して、石核は1点もありません。さらに石刃は縁辺を剥ぎ取ったり、折って小剥片を剥がしたりしていました。

いくつも峠を越えて、わざわざ千葉まで持ち運んだ石刃を、なぜ打ち欠いてしまったのでしょうか。ヒントは当時の環境にあります。この時期、氷河期はやや暖かいMIS3(6万～29,000年前)から寒いMIS2(29,000～11,700年前)に転換します。森は広葉樹林から針葉樹林に変わり、ナウマンゾウなどの温帯の森を好む大型哺乳類の絶滅が始まったとされています。

文字通り大きな獲物であったナウマンゾウ達が減る中、人々は獲物を確実に仕留めるために移動生活と狩猟に特化していきます。道具の携帯性を高め、大型石刃に特殊化し、良質な石材に依存していきます。その中で好適な狩場がありながら、“石なし”地域である千葉で編み出されたのが、一見無駄にも見えるこの技法でした。刃こぼれを再生する槌状剥離。石刃から新たな道具を作る小石刃生産。遠方から携えた資源を限界まで使い尽くし、環境に最適化するその姿は、まさに究極のSDGsです。

(渡邊 玲)



3 弥生時代 弥生時代後期の水田のある風景—木更津市芝野遺跡—

大陸より伝わった水田稲作は、最初に現在の佐賀県や福岡県の玄界灘沿岸付近で始まり日本列島は弥生時代を迎えました。

北部九州で始まった水田稲作は、その後、500年ほどかけて日本海側を進み青森県にまで伝わった一方、中部地方を通して関東地方に伝わったのは、九州で水田稲作が始まってから約700年後の弥生時代中期になってからでした。こうして、本州の中でも稲作文化の到来に比較的時間を要した地域の良好な水田跡が木更津市にある芝野遺跡で見つかりました。

芝野遺跡は、小櫃川北岸の標高12mの自然堤防上にある弥生時代から中世の遺跡です。平成元年度から平成3年度の3回の調査によって弥生時代後期の水田跡が広がっていたことが分かりました。

水田跡は、大・中・小の3種類の畦畔によって区画された弥生時代後期初頭のもので、遺跡全体が40～50cmの厚さの洪水によって堆積した層に覆われていたため良い状態で残っていました。畦畔は、「あぜ」とも呼ばれ田んぼの中に流し入れた水が外に漏れ出ないように周囲に盛り土をして土手状に囲んだもので、田んぼの世話をするための歩道としても利用されました。芝野遺跡の水田は、水の確保に適した場所であったためか、それまでにもたびたび洪水が起こっていたような土地を耕作して水田を営んでいたようなのですが、弥生時代終わりごろの洪水でとうとう水田を再開することはありませんでした。こうして一気にパックされたため、今日私たちが当時の人々の生活をうかがい知ることとなったのです。

(村松 裕南)



北側に畦畔、南側に円形周溝遺構



佐倉市神門道乗谷津遺跡見学会

見学会は、令和7年7月27日(日)に佐倉第三工業団地内にある佐倉市神門道乗谷津遺跡で開催しました。当日は、古墳時代後期(約1,400年前)～奈良・平安時代(約1,250年前)の竪穴住居跡や掘立柱建物跡



の解説及び同時代の土師器・須恵器等の展示を行いました。

酷暑の中、合計150名の方に御参加いただき、見学した方からは、「遺跡をじかに見られて大変有意義な時間だった」、「古代の竪穴住居跡の図面や説明があり分かりやすかった」等の感想をいただきました。



令和7年度 出土遺物公開展開催

【地中からのメッセージ—古墳・古代・中近世—】

当財団の設立50周年記念展part2—古墳・古代・中近世—を、9月6日(日)より千葉県立房総のむら風土記の丘資料館で開催しました。今年度は、古墳時代以降をテーマに主な資料を展示しています。

古墳時代は、房総で特徴的な埴輪が出土している3古墳9個体の人物埴輪・形象埴輪、古代は房総から日本でもっとも数多く出土している墨書土器を中心に、中近世は城跡出土遺物、大量埋納銭などの遺構・遺物を展示しました。

房総のむらでの展示は10月26日(日)に終了いたしました。年が明けた令和8年1月17日(土)から2月23日(月祝)まで、千葉県立中央博物館にて開催します。

表紙(房総2型式の人物埴輪)

右:印西市大木台2号墳出土(下総型 印西市教育委員会所蔵)

左:千葉市人形塚古墳出土(山武型 千葉県教育委員会所蔵)

写真提供 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館

裏表紙

右:印西市馬込遺跡出土瓦塔

(古代 資料・写真とも印西市教育委員会所蔵)

左:千葉市廿五里城(つうへいじ)跡出土無量寿経墨書土器

(中世 千葉県教育委員会所蔵)



私たちの歴史には
想像もできないものが埋まっている。

掘る女
縄文人の落とし物

Welcome to the
Jomon period!!

会場：四街道市文化センター大ホール
上映会+トークショー
抽日先着600名・入場無料！

令和8年1月18日(日) 13:30~16:00 (開場13:00)

財団設立50周年記念行事「掘る女」上映会

当財団の主な活動である発掘調査、考古学の魅力を身近に感じていただくため、映画「掘る女」の上映会を、令和8年1月18日(日)に実施いたします。

上映会には、主演された大竹幸恵さんをお迎えして、トークショーも行います。

映画上映会

場所：四街道市文化センター

予約不要・参加無料

日時：令和8年1月18日(日) 13:00(受付開始)~16:00

◆大竹幸恵 長野県長和町黒耀石体験ミュージアム学芸員

茨城県つくば市生まれ。明治大学大学院博士前期課程修了して現在に至る。

学生時代は千葉県我孫子市で発掘調査に参加するなど、千葉県とも縁が深い。

子どもの頃に拾った黒耀石の石器などがきっかけで考古学に進む。縁あって長

和町に就職し、黒耀石体験ミュージアムの建設、縄文時代の黒耀石鉱山の学術

調査を進めるなど、子供のころの夢を実現

